

福祉サービスへのアクセス改善に向けた基礎研究

大阪公立大学大学院 生活科学研究科 D3 天谷宙詩

研究背景

日本では、多くの社会福祉サービスは存在する。しかし、生活保護制度においては、「スティグマ」や「制度の複雑さ」などの影響から利用できるにも関わらず、福祉サービスを利用することができない、もしくは利用しない人が多い。これは、生活保護の受給率を表す「捕捉率」が極めて低いことから明らかである。

目的

- ①国内外における捕捉率の推計方法論について明らかにする
- ②諸外国における社会福祉サービスへのアクセスに関する調査(進行中)

研究方法

- ①捕捉率の推計方法論について…文献研究、国外留学を中心に現地の研究者から研究についてのアドバイス等、統計センターにおけるオーダーメイド集計を利用
- ②社会福祉サービスへのアクセスについて…イギリスを例に各社会扶助制度や福祉サービスへのアクセスに関して文献研究中(進行中)

①捕捉率の推計方法論について(方法過程と捕捉率の推移)

②社会福祉サービスへのアクセスについて(研究中)

・捕捉率の推計方法について…日本でもイギリスと同様の方法で捕捉率を推計する。特に「家計調査」に焦点を当てた分析を進めている。(統計センターにおけるオーダーメイド集計等)

・社会福祉サービスへのアクセスについて…イギリスを例に社会福祉サービスへのアクセスに関する文献研究を行っている。特に、イギリスでは、社会福祉サービスの利用申請をインターネット上で行うことができる。そこで、社会福祉サービスへのアクセス方法やそれに伴う課題、これまでの歴史的な展開過程などについて研究中である。

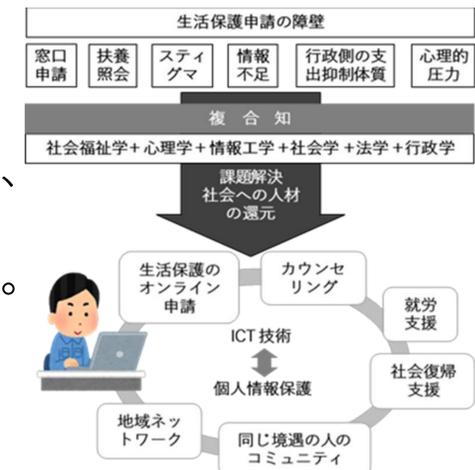


図1 日本の福祉サービスの理想的な未来像

参考文献

DHSS, 1985a-c, Reform of Social Security vol.1-3, Comnd.9517-9519.
DWP (Department for Work and Pensions), Income Related Benefits: Estimates of Take-Up 1990/1991から2009/2010までの資料およびデータ
Townsend, P., 1979, Poverty in the United Kingdom: a survey of household resources and standards of living, University of California Press.